を用ひすして癒たり此故に蛸藥師とよふとそ一書にいふ古名水上藥師とも稱し叡山北谷に在り傍に水澤あるを以て澤藥師と號せしを俗に訛まりて蛸藥師と稱せしなりと

圓福寺 新京極蛸藥師南

淨土宗西山派深草流の一本寺なりしか故ありて近年參河國妙心寺（額田郡岩津村に在りしなり）と寺號を交換し同寺の本尊を當寺に迎へり

安養寺 新京極蛸藥師南

寛和年間慧心僧都の草創にして初め和州に在り華嚴院と號せしか第二世安養尼（僧都の妹）住持せしより安養寺と改稱し天永年中隆遷法師京都に遷す淨土宗西山派にして本尊阿彌陀佛（立像六尺三寸）は八葉の蓮華を倒にせる華嚴に安し往古靈驗の事あり（當寺の樓上に掲くる安養寺の額は後深草帝の宸筆なりといふ）しとて世に蓮華の名高し

錦天滿宮 新京極通四條上ル中ノ町

傳へ云ふ當社は長保年中菅原院の舊殿を源融（とほる）の遺跡六條河原院に遷し佛刹となし六條道場河原院歡喜光寺といふ故に菅原道眞の靈を祀る天正年中該寺を今の地に移し錦小路に在を以て錦天滿宮とよふ元治元年兵燹に罹り假殿を營み其後更に再興し同五年五月歡喜光寺の所屬を脫せり攝社に蟲鹿神社といふあり河原左大臣をまつれり例祭は二月廿五日にして社格は村社なり社地全市繁華第一等の所にあるを以て賽人常に絶えす本社西面菅公を祀れり境内に攝社末社多し

歡喜光寺 新京極通中ノ町

古名善導寺正應四年綴喜郡八幡庄に創立し聖戒を開基とす後に六條河原院の舊跡に移り六條道場と稱し又紫台山歡喜光寺と改號す本尊阿彌陀如來時宗十二派の一にして世に六條派と云ふ是なり天正年中今の地に移れり

金蓮寺 新京極錦小路下ル東側

世に四條道場と稱す舊は萬里小路（までのこうじ）通錦小路と綾小路との間に在りしに因み錦綾山と號せり時宗にして開祖を淨阿と云ひ後の住持も皆同名にして維新前までは

幾代淨阿と呼ひしよし他の寺院に類ひなき例なり本尊阿彌陀佛（座像四尺餘）を安し其傍に親鸞地藏（立像三尺餘逆修の作もいふ此像初め東山馬遊山のほとりに在り父母を失ふ童兒此像に向て哭す依て名つく後故ありて此に移せり）を安せり相傳ふ在昔廣義門院（後伏見帝皇后）御病患のとき寺僧淨阿の呪符を需めたまふに依りこれを獻上せしかは皇子（即ち光殿院）御安產ありしといふ

染殿地藏 新京極四條角

立像五尺餘弘法大師作にして染殿と名けし由緣は染殿皇后の深く敬信したまひしによるといふ即ち十住心院の本尊なり眞言宗にして弘法大師の十住心論を述作せし所なりとそ舊は爲平親王の邸地なりしを捨て精舍とせられしこと古緣起（當院元は金龍寺の境内にあり同寺緣起に爲平親王に作る孰れか是なるを知らず）に見えたり十住心院一名を敬禮寺と稱し又四條京極釋迦堂（釋迦佛は今金蓮寺に在り）とも世に稱せしよし一遍上人の傳に見えたり

八阪神社御旅所 四條通御旅

四條通を挾んで南北に二祠あり共に八阪神社の御旅所にして祭事に當り神輿を

此處に置き奉る市內最も繁華の所にあり衆庶の群參街衢に溢れて殆と立錐の地もなし

大雲院 寺町通四條下ル東側

龍池山と號し淨土宗にして智恩院に屬せり元は二條烏丸に在り開基貞安上人織田信長公の旨に依り江州安土の淨嚴院に於て日蓮門徒と宗義を論難し大に公の意に稱ひ七種の珍器を贈らる其書牘今尙存せり公の害に遇ふや上人大に之を悼み小庵を營みて公の菩提を弔ひしか天正十五年豐公の命により織田信忠公の追福の爲め更に當寺を創し其法號に因みて大雲院と名けたり同十八年勅して定願寺としたまふ又當院に一休和尙の筆法然上人の一枚起請文といふものあり世に著名なり

本堂　南向中央に阿彌陀佛（座像七尺許惠心僧都作）堂前大雲院の勝は後陽成帝の宸翰なり

開山堂　本堂の東に在り厨子中に貞安上人の像を安す

千佛堂　西面開山堂の東南にあり寶冠釋迦佛（座像二尺四五寸許）左に文殊右に普賢（共に座像一尺四五寸）を安し三方壇上に五百羅漢（各立像一尺二三寸）を排列せり

經藏　門内の左傍にあり南向黄檗印行一切經を藏す

穀田信忠塔　境内墓地に在り碑面に大雲院殿二品羽林仙岩大居士と題せり貞安上人の建る所なり

島津以久墓　同處にあり以久は伏見に於て死し此處に葬れり碑に高月院宗恕居士の文字あり其傍に殉死四士の墓あり

招魂碑　本堂の東に在り佐土原藩士維新の際國事に殉れしものゝ爲に設る所なり

神宮教京都本部 寺町通四條下ル東側

天照皇大神の祠を建て皇道宣布の教場となし本國及び丹波丹後近江若狭越前を教區とし數百の教師と數萬の信徒を統轄せり明治八年大教殿を創建し翌年御遷座式を擧け神宮祭主故久邇宮親から其事を董さる同十四年神宮遙拜所を新築せり大祭は例年十月十六十七の両日にして部内各國の信徒報賽群集せり又毎月數次の教筵を開き專ら皇道の擴張を謀り漸次隆域に上れり

淨教寺 寺町通四條下ル東側

多聞山と號し淨土專念宗にして知恩院に屬すはしめは東山に在り燈籠堂と稱す中世東洞院高辻に遷し後又今の地に移せり相傳ふ小松内府東山小松谷に於て精舍を營み四十八軀の彌陀像を安置し踊を作り侍姫をして之を歌はしめ毎夜數百の燈籠を點す因て燈籠大臣と稱すと其本尊を此に安せしか故ありて鹿谷法然院に移せり今の本尊（立像三尺餘巻日作）は其小像なり本堂並に佛壇内外の繪畫は皆佳作にして凡工の及ふところにあらすとなん中興は立寧上人堂上に掲くる淨教寺の額は後小松帝の宸翰なりといふ

重盛公碑　本堂の前に西面せり題して内大臣平重盛公之碑といふ有栖川宮（熾仁親王）の御揮毫にかゝる裏面の撰文は徽定師（知恩院の先住）にして書は從二位長谷信篤氏の筆なり

御影堂 五條通寺町西入南側

當寺初は東洞院春日街に在り中ころ東河原に移り（明月記に綾小路河原御影堂とあるは是なり）後此處

に移れり寺傳にいふ天長年中檀林皇后の創立にして弘法大師の開基なり中興應阿上人（一遍上人の高弟）眞言を改めて時宗とせりと本尊阿彌陀佛は安阿彌作左右脇壇に一遍上人應阿上人の像を安す當寺初めの本尊は信濃國善光寺阿彌陀如來の摸像を安せり故に新善光寺と稱し世人呼て御影堂といふ中世大に衰頽し元治の變に堂舍燒失せるを以て昨年漸くこれを再建し殆と舊觀に復せんとす
本寺寶物中優等なるものは地藏菩薩像及ひ一遍上人繪傳の卷等なり

長講堂（下寺町通五條下ル東側）

後白川上皇の創建し給ふ所にして舊は西洞院六條なる仙院の境内に在り承元年中重修せり今淨土宗となり西山派の僧之を守れり古來繪畫院宣等數多を藏めたりしも屢々兵革に遭ひて散失せり
本堂　南向中央は阿彌陀如來（座像五尺許）脇侍は觀音勢至（共に座像二尺七八寸）を安す又堂内に花方觀音（立像三尺許）といふ靈像を安せり相傳ふ此觀音は平語にいふ所の花方かもいへり
持佛なり花方の誅せらるゝ時蒼波を超て其難を救ひ給ひし故に又渡海の觀音と

後白川帝宸影　本堂の前西面の堂に奉祀せり法服（座像三尺許）を着したまふ宸影なり
尚は他に一幅の尊像あり庫中に藏せり

太子堂白毫寺（下寺町）

一に速成就院と號す初め東山にありしを慶長中知恩院再建の時こゝに移せり宗旨は律にして和州西大寺に屬せり本尊聖德太子は南無佛と稱し立像長尺餘自作にして脇壇四天王は唐作なりといふ

市比賣神社（下寺町東入本壇廻町）

當社祭神は市杵島姫命、瀛津島姫命、淵津島姫命の三座なり往古東市即ち堀川通北小路上る所にありて方一町なりしと天正十九年豐公の命により現地に遷せり今境内に天の眞名井といふあり舊社地にも同名の井水ありし由にて淸和帝御宇より後鳥羽帝の時まで皇子御降誕の時は此水を產湯に用ひたまひし由又足利將軍義持の生れし時も產湯となせし故祠宇を修造せしよし舊社緣起に見も創建は延曆十四年五月にして閑院冬嗣公左右兩京の市場に各々一祠を營み守護の神とな

せり故に世人今なほ市姫大神をよべり例祭は三月十四日なり

宗仙寺 高倉通五條南

在昔都下に於ける曹洞宗三箇寺の一にして釋迦佛を本尊とす寛正年中所司代多賀豐後守大檀越となりて自ら宗仙寺喜山洞悅と號す當時旺盛を極めしと云ふ豐後守の肖像を安置するはこれが爲めなり堂前に在る籬井は河原左大臣融公別業離島の遺址なりと傳へり

本願寺 東西二所に在り俗に西本願寺東本願寺と稱す

宗祖見眞大師卽ち親鸞聖人は藤原姓にして日野有範卿皇太后宮大進の長子なり承永三年に生れ養和元年青蓮院慈鎭和尙に就て得度し建仁元年圓光大師の吉水禪房に入り元仁元年常陸國稻田に於て淨土眞宗を開き弘長二年京都に於て入寂明治九年見眞大師と追謚せらる龜山帝文永九年覺信尼見眞大師の季女如信上人同上の孫と共に一寺を創し知恩院の崇泰院は其の遺址なり久遠實成阿彌陀本願寺と稱せり夫より蓮如上人第八世に至り一宗の衰頽を恢復し其功偉なるを以て中興と稱す明治十五年慧燈大師の謚

號を賜はる實如上人第九世のとき大永元年門跡に準せらる維新後舊制を革め大谷家と稱し華族に列し位階を賜はれり天正十九年に至り今の地に移り准如上人第十二世に及ひて德川家康上人の長兄敎如師の爲め別に一寺を剏建し東本願寺と號す實に慶長七年なり是より本寺兩派に分れ全國門末は殆と折半し西を本派東を大谷派と稱せり近年の調査に據れは現寺兩派所轄全國別院六十餘區末寺一萬零二百餘字あり宗風の旺盛なる本邦無雙にして近時海外敎所に別院を設け布敎に從事するに至れり

本派本願寺 堀川通花屋町本願寺門前町南入

由緒及ひ沿革は前項に揭く分立後諸殿堂の建立又は改造等の要領を擧くれは慶長十二年准如上人本堂を再建し元和三年悉皆回祿し同四年本堂建築先つ成れり此時本堂の位置を換へ從來西面なりしを東面となせり寛永十年良如上人第十三世大師堂を建て同十四年に落成し卽ち今に存せり寛延二年法如上人第十七世本堂を改築し寶曆十年に成り現時に至れり

本堂 東面せり東西二十一間餘南北二十二間餘本尊阿彌陀佛立像三尺春日作を安し其

左右に先帝宸牌と今上陛下聖壽寶牌とを安し奉り左脇壇に龍樹菩薩善導の畫幅（故幅德力善宗の筆を摸寫す）右脇壇に天親道綽源信の畫幅（由來同上）を安し左餘間に聖德太子（大和法隆寺の寶物同太子自筆の畫像を摸寫せしもの）右餘間に圓光大師（法然上人の筆にして聚生法如上人の寫せしもの）の畫像を安せり

北表門　本堂の前に在り東面せり檜皮葺寶永年間改造する所なり

大師堂　大堂の南に在り東向東西二十四間半南北三十一間半棟高十五間前榻に掲くる見眞二大字の額は今上陛下の宸翰なり中央厨子に見眞大師（座像二尺五寸餘自作七十二歳の骨像にして大師示寂の後茶毘の灰を以て之を塗る世に骨肉の眞像と稱す）を安し左脇壇に前住上人右脇壇に當時歴代の畫像を安す左右餘間の十字九字の兩幅は淚如上人（第十四世）の筆にして上下の贊は尊法親王（青蓮院宮）の書なり

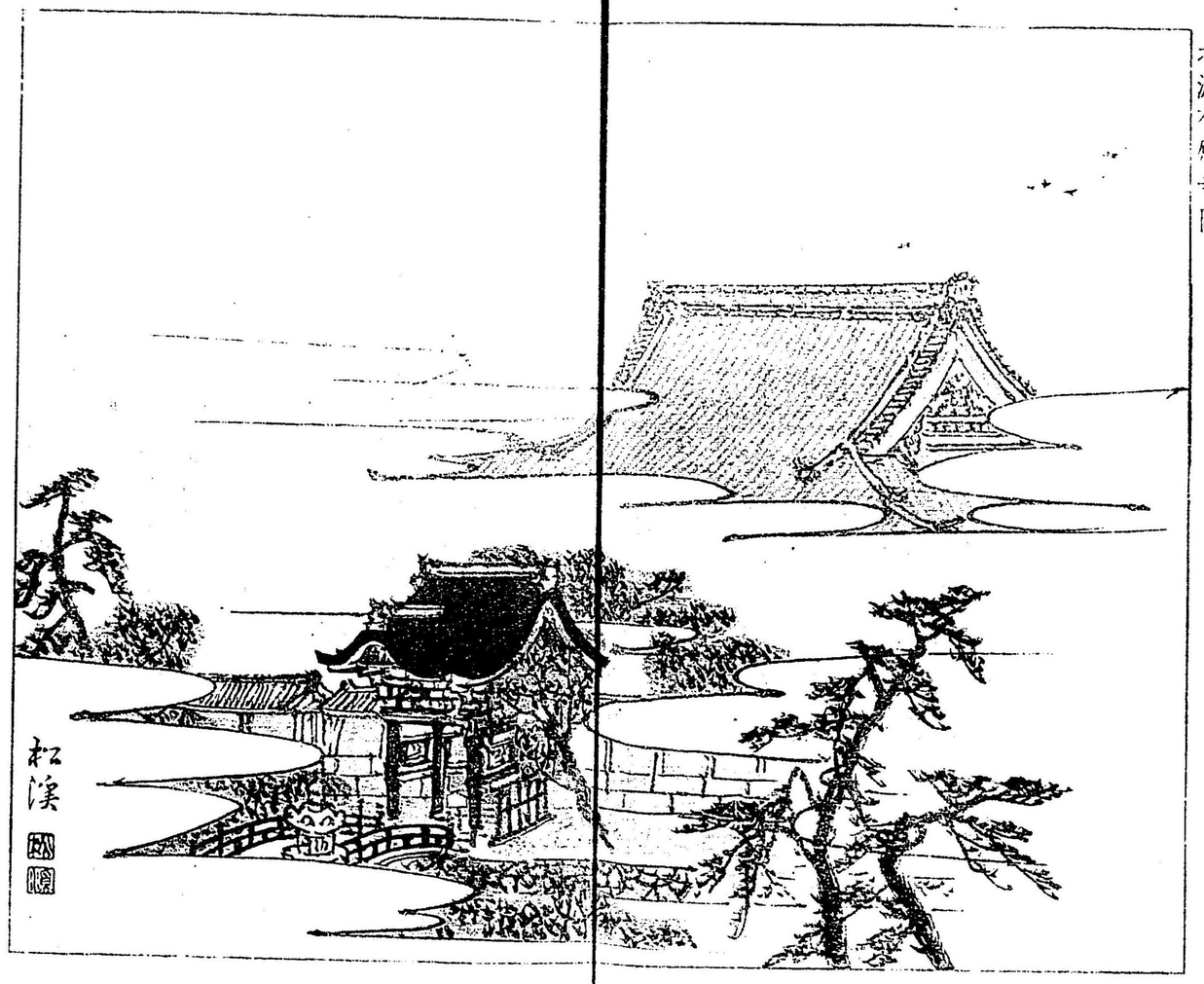
南表門　大師堂の前に在り同しく東向なり正保年中の再建に係る

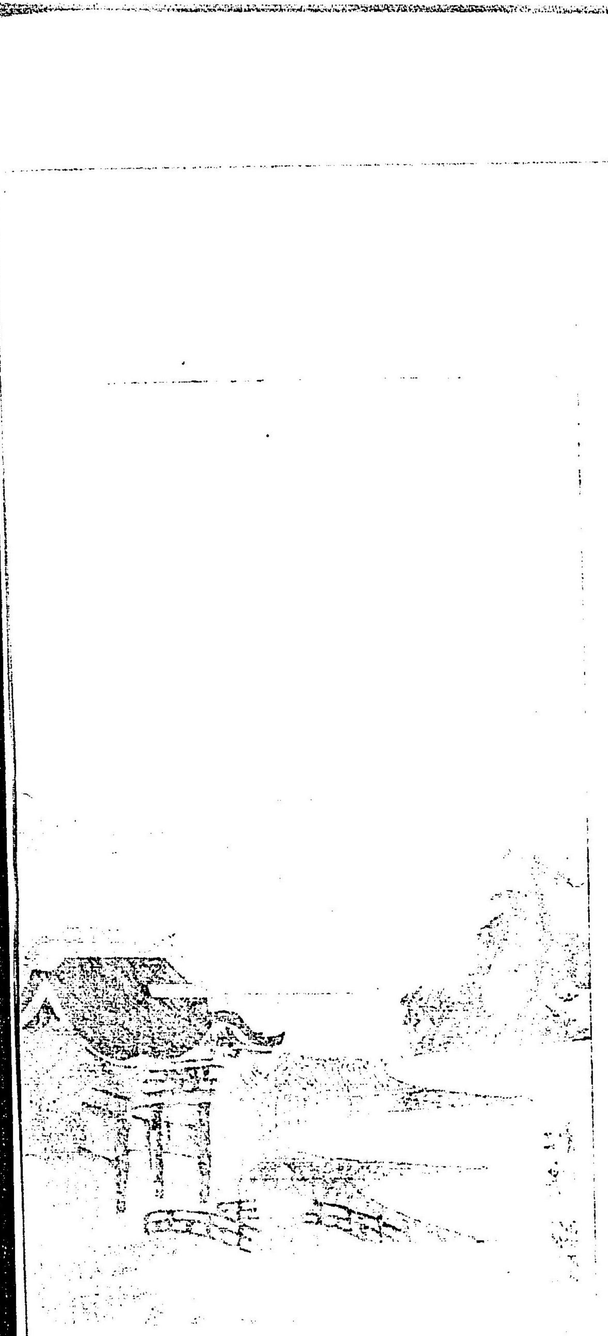
經藏　境內北方に在り二重瓦屋にして南面延寶年中の改造なり

鐘樓　堂の東に在り寶永年中に再造する所なり

接待所　即ち茶所なり南北兩門の間にあり天明年中改造するところにして四方參詣者の休憩に便せり

本派本願寺圖





大廣間　廳堂といふ疊數三百餘に及ひ最大なる書院にて南面に之を建つ北に上段の間あり前に廣間あり結構宏莊華麗を窮極し金碧燦爛人目に眩く其壁畫襖畫皆名筆にして張良四皓、武帝西王母、遊童等は狩野守信、藤花、直實敦盛、菊花の三圖、海北友雪等にて欄間の芦鶴の彫物は左甚五郎なりといふ書院の華麗なる大抵大廣間と相同し餝鼓滕、太鼓の圖は狩野興意、武藏野秋草、折枝、田獵の三圖は狩野永德の筆にて其他も名筆多し此建物は舊と聚樂邸の正殿なりしを桃山に移し寛永九年德川氏より本寺に寄附せしものといふ四脚門は其正面にあり是亦桃山の舊物にて彫鏤精美なり左甚五郎作なりといふ

大廣間の東に林泉あり大石奇岩を疊み多く蘇鐵を其間に植う白砂を以て水に擬し石橋を架す地廣からされとも幽靜にして佳なり之を蘇鐵の間といふ

本寺の寶物は甚た多くしてまた公の調を終へされはこれを記さす然れと工藝美術品の如きは最も有名の品ありといふ

摘翠園　寺の東南隅に一の區域をなし樓臺亭榭、古樹茂林、泉石花竹、其間に交錯せり其閣を飛雲閣と號す三層にして東北林泉に面せり西に湯殿あり前に船入あり船を欄下に艤して直にこれに上るへし構造奇巧風流を極めたり是は舊と桃山城

の建物なりしを德川氏より寄附せしなりといふ閣中の繪畫に雪中柳は永德、二の間の八景は探幽、中の間の歌仙は山樂の筆なり其池を滄浪池と號し其山を踏花塢といふ龍背橋、胡蝶亭、嘯月坡、黃鶴臺、皓雪林、醒眼泉、靑蓮榭等の名勝あり安永年中法如上人の時江府文士の詩（五絕二百餘あり編して二冊となせり）を徵し又齋藤拙堂をして其勝を記せしむ

語合松　臺所門前なる末寺集會議場の庭中に在り傳へいふ六條藏人仲家首塚の松なりと地は故坊官下間少進の舍址なり一年後水尾天皇禁苑の鶴逸れ來りて此に止る乃ち捕へて之を奉還す帝叡感の御製ありとそ語合の名は冷泉爲尹卿の「あかなくの契りや宿にしるからし千代を語らふ松風の聲」の詠によるといふ

大學林　本派本願寺の南七條通の北にあり寛永年中本山境內に創設し派下僧侶佛學研究の所とす實曆年間東中筋花屋町の北に移せり天保以後更に國學、儒學、曆術等の兼學科を備ふ元治の兵燹に回祿し尋て假設し明治四年又境內に轉し同十二年現地に新築せり地區方六十間中に講堂、教場、寮舍、經藏、土藏等あり當時藏書は大藏經二部の外佛冊、儒書、史子、文集等四千六百餘部（二萬五千二百餘冊）洋書四百餘部あり現在教員二十八人にして學生は二百三十人ありと云ふ

文學寮　一貫町松原通に在り講堂教室以下十五棟（九十餘室）あり二十餘名の教員百八十名の學生あり一千七百餘部の書冊を藏せり明治九年西山別院內に大學林の分局を設け普通科を移すに始まり其後大學林內に合し初は普通教校と稱し後今の名に改め同廿五年現所に新築し專ら宗內僧侶の子弟に佛學の要領及ひ英學其他普通學を授く

大谷派本願寺

烏丸通七條上ル常葉町

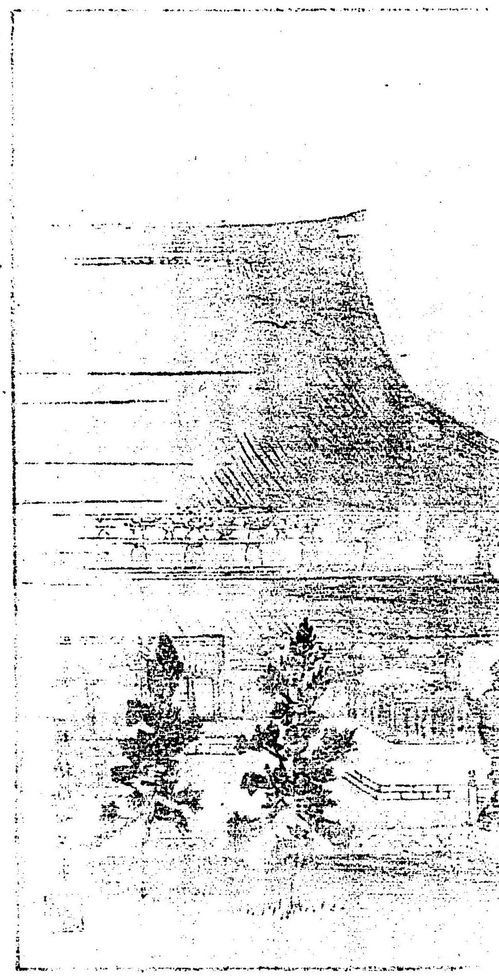
本願寺教如上人（第十二世）德川家康の命に依り慶長七年後陽成帝の勅許を得て本刹を創建し之を大谷派本願寺と號し世に東本願寺と稱す（文祿初年顯如上人沒し其長子教如上人を嗣き同三年故ありて退隱し此に至りて本寺を開けり）慶長七年土木を起し翌年に成り宣如上人（第十三世）承應初年大師堂を改造し大迦籃とす常如上人（第十五世）寛文七年本堂を再造し乘如上人（第十九世）天明八年堂宇回祿す達如上人（第廿世）寛政十年兩堂等落成せしか文政六年又焦土となり再建の爲め德川家齊巨材を喜捨し天保六年落成す殿如上人（第廿一世）安政五年又類燒せりこの時宗祖六百回の忌辰にちかきを以て輪奐奮の如き假堂の工事を捌む德川家茂又巨材を寄施し萬延元年落成し元治の變に諸堂及ひ枳殼邸共に兵火に

罹れり慶應初年両堂再營の綸旨並に白銀若干の下賜あり明治十三年又金幣の賜あり同廿二年大師堂阿彌陀堂の上棟式を擧行し（明治十二年に起工せり）本年両堂遷佛式を修す

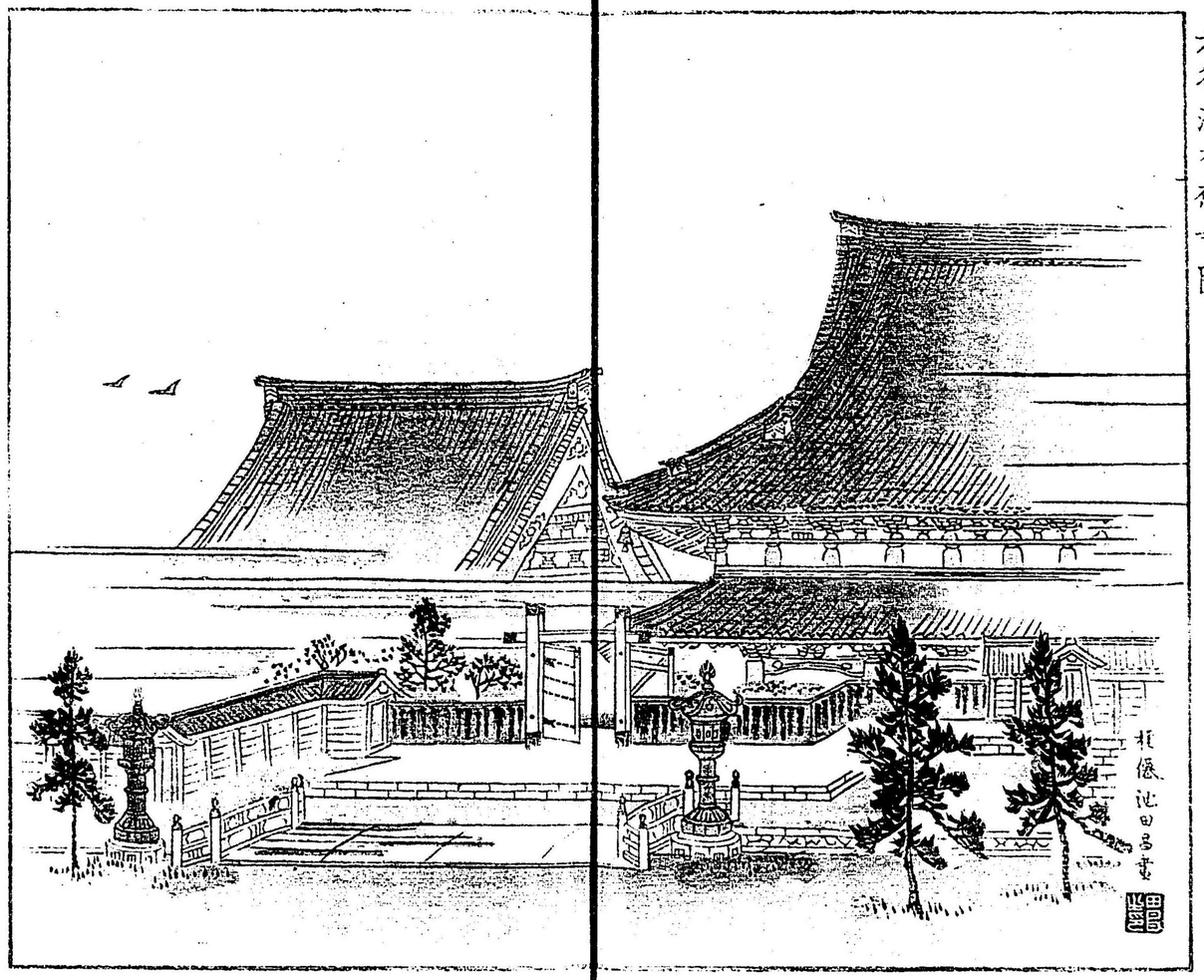
大師堂　東向南北三十五間東西三十二間棟高二十一間餘建坪一千百八十六坪の大伽藍にして中央厨子に見眞大師自作木像長二尺七寸餘（大師老後法弟に紀念として與へしもの越州猿島成念坊の室にあり後上野前橋妙安寺に安置せしを東照公の命により本山に寄附したるものなり）を安し左右脇壇に前住上人の畫像を始め歴代の畫像を安す各部の粧飾善を盡くし美を盡し種々の繪畫雕鏤みな新作なれども一時の名手を驅り妙腕を揮ひたるものなれは金碧煌燦し魂魄目を驚かす

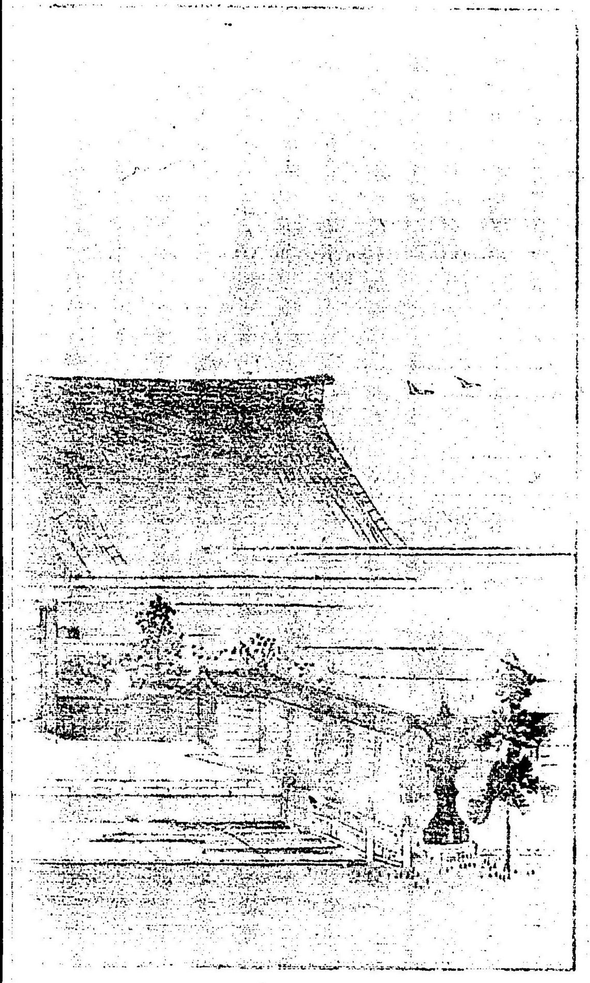
本堂　新大師堂の南にあり又た東面なり南北二十六間東西二十一間棟高十五間建坪六百十三坪本尊阿彌陀如來木像長三尺四寸（安阿彌作）を安す左右に先帝の御靈牌及び今上陛下寶祚萬歳の宸牌を奉安し脇壇に龜山帝の尊牌圓光大師の畫像其他六高僧の畫影等あり粧飾の彫刻繪畫等前後映輝して光彩陸離たり

鐘樓　新本堂の東に在り新本堂等と同時の再建なり其他殿舍諸門等都て假建なり



大谷派本願寺圖





大寢殿、小寢殿、白書院、黑書院、鷺間及ひ能舞臺集會所等は新大師堂の北にあり

渉成園　東本願寺の東枳殼馬場玉水町に在り世に枳殼邸と稱す舊は其四周に枳殼を植ゑ生籬とせしより名く寺傳に此地は在昔河原左大臣源融公陸奥千賀鹽竈の風光を愛し之を摸し攝津難波より潮水を運漕し之を焚かしめたる遺跡なりと（案するに河原院の舊址は櫛笥小路の四方數町に渉りしといふ寛永年中徳川家光斯園を宣如上人に附與極高里小路の四方數町に渉りしといふ）しまた伏見桃山の舊構を移し石川丈山に囑して林園泉石の風致を修造す又其一部なる臨池亭の庭は小堀遠州の好みに出つと云ふ園中に滴翠軒、傍花閣、印月池、臥龍堂、五松塢、侵雪橋、縮遠亭、紫藤岸、偶仙樓、雙梅簷、嘯枕居、回棹閣、丹楓溪等の十三景あり紫藤岸の藤は後水尾帝の賜ふ所にして岸の西南小嶼の上に九重の石塔あり傳て融公の古墳なりといふ縮遠亭の匾額は孫超法親王（本願寺第四世）の筆亭の天井縁は賤岳七槍の柄を用ひ又石を以て鹽竈を摸造し漱水盤となし河原院の古跡を存せり偶仙樓には詩仙歌仙を掲けたり書は近衛家熙公にして畫は渡邊始興なり嘯枕居の匾額は眞仁法親王（妙法院宮）の揮毫にして小嶼摘茶の園は狩野永納なり傍花閣天井の磁石形十二支は石川丈山の作南北の袖軒に直實挑致盛圖（繪馬）なりを掲く狩野永納の筆なり闊風亭には石川丈山飛白にて渉成園三大字の匾額を掲けたり

大學寮　高倉通魚棚上る富屋町に在り創始は孫如上人（第十四世）の代にして寛文二年に在り當初本寺の別邸渉成園の一部を以て之に充てたり其後寶暦年中現地に移し講堂諸寮等を建設し文政年中本山燒失後更に再建し明治初年分塲を高倉上る東馬塲に置き醫法塲と稱し其後又別に育英教師中教上等教の諸校及ひ習練塲等を置き同十九年兼學部を設く同廿一年講堂諸寮舍各教塲を再建又は增築し專門僧屬別科本科研究科等の學科を設け安居は前後兩本講及ひ次講副講ありて派內僧侶に布教上必要なる講習をなさしむるを以て目的とす

中學寮　東山今熊野町にあり明治廿一年大學寮內の兼學部を割き京都尋常中學校へ合併し餘科と稱して宗餘乘を教授し廿六年別に大谷尋常中學校を設け廿七年九月に至り各地に中學寮を立て京都にあるを第一中學寮と稱し校舍を新築す總坪數一萬四千坪許にして教塲寄宿舍等總計六百九十餘坪あり

興正寺　堀川通西本願寺南

圓頓山と號す眞宗一派の本山にして其間創は佛光寺と同一なれは再ひ茲に贅せす文明年中經豪（佛光寺第十四世經豪の兄なり）故あり山てゝ山科本願寺蓮如上人に謁し同志の徒と謀り山科鄉に於て新に一宇を創し佛光寺の舊號を用ひて興正寺と稱す天文初年回祿し經昭（第十五世）大阪天滿街に移す其後天明年間に至り佐超（第十七世）天滿を別院となし更に現地に殿堂を經營す結構一に兩本願寺に準して莊麗なり一書に門跡號は正親町帝御宇永祿十二年本寺第十七世顯祐上人の世に當り勅許ありしと見えたり

本堂　東面中央阿彌陀如來（立像二尺餘）左脇壇に宗祖の畫影を安す餘間の北に聖德太子幷に七高僧の畫像を安し其南に當山歷代の畫像を安せり

本國寺　松原通南堀川西

法華宗隨一の本寺にして大光山と號す初め日蓮上人相州鎌倉松葉が谷に一精舍を設け法華堂と稱し同宗最初轉法輪の地となし日朗日印相繼きて其堂に住み日靜の時に及ひ勅願所となせり歷應四年光明院の勅により茲に移しぬ天文五年灰燼に歸せしか再ひ建立し幾多の塔頭も亦その傍近に羅列せり

二王門　西面兩金剛力士（長八尺餘）を置く

本堂　西面なり本尊は法華經（日助僧都一字三體の自筆）左に釋迦佛右に多寶佛を安し脇士に

雲上四菩薩四天王等あり前楣に掲くる扁額妙法華院の四字は水戸黄門光國卿の揮毫なり

祖師堂　本堂の南に西面す高祖上人の眞影を中央に日明、日印、日諦、日伸の像を脇壇に安せり

羅刹堂　天文十七年細川晴元の再建にかゝる鬼子母神（日朗の持像）の十羅刹女（法橋康秀の作）を安置す

番神社　太田道灌創建し加藤清正再建せり

經藏　境内の西南隅に在り是れ火災前の舊建築にして當初の遺物唯この經藏あるのみ足利義政寄進の一切經を藏ひ

大黑堂　大黑神を祀る寺記に曰く天正年中一老翁大黑の像を持ち來る住僧日栖買ひとりしに價は明日來りて受けむといふ其宿所を問へは筆紙を乞ひ書つけ去りぬ後にて見れは「遥々と北野の松の下すまゐ宿は葺の陰の菅原」とあり翁再ひ來らす世に之を聖廟の神作なりといふ

加藤清正祠　本堂の東南に在り裏衆絶えす祠畔に清淨院（清正の室）瑤林院（清正の女）の塔あり

方丈　西面境内北隅に在り瑞龍院（豐臣秀次の母）の建立にして障子等の畫圖は永德の筆なり

松永久秀廟　墓所の北に在り

小早川秀秋廟塔頭瑞雲院にあり

人麿呂社　方丈の北に在り祓大明神社（紀貫之を祀る）は塔頭勸持院に在り

當寺所藏の古物多しといへとも就中鴛鴦の曼荼羅最も其名高し日蓮上人の筆に成り表裝は花色に一寸許なる鴛鴦の摸樣あるを用ゐ世に本國寺裂と稱するはこれに摸擬したるものなり其他傳に張思恭筆といふ羅漢圖土佐光信筆廊の圖扉風及び金銅釋迦立像等最も優れたり

角屋（下京區花屋町千本東島原揚屋町）

長松樓といふ島原廓中最も舊家にしてまた最も著名なり今より二百五十年前六條よりこゝに移りし時の建築にかゝり當時一刻千金の豪華を競ひし錦金窩なれは樓臺の結構粧飾より排置の器物に至りみな善美を盡くし各室の障壁は名人の字畫を以て充ち緞子の間に四周緞子を貼し青貝の間に全部螺鈿を嵌する等當時

に在りては奢侈を窮極するものといふへし庭前に老松あり枝幹蟠屈臥龍松といふまた名高し

佐女牛井 六條堀河堀ヶ井通四

世に傳ふ水質極めて清冽なり古來茶家之を賞用すひかし茶人珠光南都稱名寺の僧歸俗し後此所に住せり足利義政頗る茶道を嗜み時々來り臨む珠光此水を用ひ茶を點して獻せしとそ周圍の甃石は織田有樂の改め築くところ當時建仁寺古澗長老記文を撰し石面に雕あり

藪内氏茶亭 西洞院北小路北

家傳に云ふ鼻祖紹智一に劍仲と號せは千利休の高弟なり或時其師に向ひ諫めて曰く豐公の寵遇衆に超も遠慮なきときは近憂あらひと利休悅ひす乃ち去て大德寺内三玄院に寓し茶事を專はらにして世を過せり利休滅後洛北紫竹に棲遲し其後鷹司通否町なり下長新町の西に移り本願寺門主良如上人の招きに依り今の所に轉住す故に茶道の下流小川千家上流と分てりと稱し利休嫡傳の正流なりといふ茶亭は古田織部の好みにして京座敷と號せしを織部大阪の役に出軍の時此家に讓る所にして今尚は傳襲せり其結構風致は世間既に定評あれは之を贅せす今たゝ其重なる名目のみを列擧せんに古田織部數寄屋利休寄灯籠井文覺石文珠石利休戸下石東山殿石灯籠利休三小袖石待合燃田金灯籠八阪法觀寺礎談古堂路次口雪隱幹皆茶家の艶稱する所なり又茶亭の軒に掲くる燕庵の額は珠光の筆なり雪のあしたといふ石燈籠は東山殿の遺物なりといふ

夕顔塚

高倉通五條の北なる町家の間にあり夕顔の事につき種々の說あれと其人の有無は知るへからす今姑く俗傳によりこれをしるす

佛光寺 佛光寺通高倉

眞宗一派の本山なり汁谷山と號す宗祖見眞大師建曆中山城國山科鄕に一字を創す順德帝興隆正法寺の榜を賜ひ勅願所としたまひ後ち之を眞佛に附せり貞永初

年大師の命に依り眞佛より源海に讓り夫より了海に相傳せり元應年中了源（第七世）寺基を東山澁谷（今大佛殿の邊）に移し了源を當山の鼻祖とす嘉暦年間佛光寺を賜ふ因て今の名に改む寛正年中後土御門帝第十三世光敬を門跡に補せられ爾來世襲せり是れ眞宗門跡の嚆矢なりと

そ天正年中經範の時殿宇を五條坊門（即ち現在の地なり）に遷せり蓋し豊太閤の東山澁谷（しぶたに）に盧舍那殿を建るを以て其請に應せしなり元治初年兵火に罹り明治十五年再造せり佛殿堂舍の輪奐莊麗なる洛下有數の名寺なり

本堂　東面中央に見眞大師照影（座像二尺厨子に入る自作）南脇壇に了源上人木像北脇壇に隨庸上人（隨庸上人の筆）を掲けたり

阿彌陀堂　本堂の南に在り東向なり本尊阿彌陀如來（立像三尺二寸繪覺大師作）は見眞大師より眞佛上人に附屬せるものなりと脇壇左に聖德太子（立像二尺五寸自作といふ）右に法然上人（座像一尺五寸强自作）を配す此像は上人配所に赴くに際し大師に附與する所といふ其他南に三朝六高僧（共に座像一尺五寸餘其中光明大師は唐作）を安し北に將軍家歷世の木牌を置く在昔存覺上人此所に於て六部抄幷に四部九帖を述ふ故に存覺の室と名つけり

玉津島神社（松原通烏丸西入玉津島町）

五條三位俊成卿の勅旨により其邸地に紀州明光浦（あかのうら）なる玉津島に鎮座したまふ稚日女命息帶長日女命（おきたらしひめ）衣通郎女（そとほりいらつめ）の三神を勸請せられし所なり社記に在昔境内廣く松樹繁茂せしをもて終に街名を松原と云ふに至り（今の松原は古の五條なり）當社に五條松原社の稱ありしと云ふ貞和二年再營名歌所別當職を復興し歷朝の崇敬淺からす歌道傳授の節は使を遣はしたまふ例ありとそ元治元年兵燹に罹り近年漸やく社殿を造營せり例祭は十一月三日とす

因幡堂（松原通烏丸東）

本名は平等寺法務は天台宗聖護院門主より兼攝し寺僧は眞言宗なり寺傳に長保年中因幡守橘行平第を捨て精舍となせり因て因幡堂と稱す其季子光朝をして寺務を司どらしむと承安年間高倉帝勅願を賜ひ平等と號す又治承年中廳舍を壞ち當寺に施入せられしこと舊記に見も從來堂宇は足利義教（六代將軍）の再建にして爾後五百有餘年を經る古刹なりしか前年回祿にかゝり其後これを再築せり

本尊は傳に三國傳來といふ藥師如來の木像にして彫刻極めて精美のものなり

五條天神社（松原通西洞院西入 天神前町）

祭神は天照皇大神、大巳貴命、少名彦命なり一に天使社と號す相傳ふ延暦奠都の日奉祀する所或はいふ僧空海の創建なりと正治年間に正五位下を授けられ永和年中正一位に昇されしといふ當社舊例に節分の日玉串神札等を朝廷へ獻し稟米下賜の事ありし祭日十一月三日及び節分の両日とす

住吉神社（高辻通油小路西入 高辻町）

當社は往時五條烏丸の東に在り後白河帝の御宇藤原俊成卿の勸請する所なりといふ天照太神、田霧姫神、底筒男神、表筒男神、神功皇后、武内宿禰を祭る應仁の亂に兵火に罹り僅かに神寶を存するのみなりしか永祿年中正親町帝の旨を以て今の所に遷祀せり中御門帝正德六年神輿及鉾等を賜ひ歷朝歌道傳授の儀あれば使を遣はして拜せしむ

圓山應擧墓

下京錦大宮町悟眞寺にあり近年其畫名の益々高きより來吊する人多し

菅大臣神社（佛光寺通新町西入 菅大臣町）

相傳ふ此地は在昔菅原家の邸址にして道眞公も此處に誕生し給ひしとそ今尙ほ境内に誕生水といふあり（東都烏石菖蒲の碑石を立つ）創造年月は之を詳にせすといへとも後人公の令德を欽仰するもの其邸址に因みて祠宇を經營せしならむ中古天神御所又は白梅殿とも稱せり維新の際まては曼珠院宮に屬せしか明治六年その所管を脫せり祭るところは菅原道眞公と大巳貴命なり毎歲八月十六日祭事を修す

紅梅殿神社（佛光寺通新町西入 北側）

當社を北菅大臣神社と呼ふは菅大臣社の北に在るを以てなり祭神は菅原是善卿なり是亦當寺の邸址なるを以て世に菅原御所或は紅梅殿と稱せり往古社地の廣大なりしことは社記に詳かなり古來數次の回祿に罹りて記錄を燒失し奉祀の由

緒及ひ創營年月共に定かならす近時曼珠院と分離せしことは前記の菅大臣神社に同し

空也堂　增藥師通堀川東

一に紫雲山極樂院光勝寺と號す空也上人を祖とする一派の念佛宗なり寺傳にいふ空也上人は延喜帝の皇子なりしか塵外無爲を樂むの志あり遂に金殿玉樓を出て鞍馬山に閑居せられし時鹿あり來り馴る時に平定盛性太た獵を好み終に其鹿を獲る上人これを傷み請ふて其皮を裘とし角を杖頭に挾み暫くも身を離さす定盛懺悔の餘上人の法德に歸し優婆塞（うばそく）（俗体にして法衣を着すとなり）を刺らす（髮子を帶ひ）瓢を叩きて上人の作られし法曲を唱へ寒夜市中を徘徊せしといふ今尙ほ其遺風を傳ふ俚俗之を空也堂鉢敲きとよふ（山城志に優婆塞二十戸もあれともいまは大に其數を減せしこれを服すれは牟中邪氣を免るゝもの御宇より始り世に王服を戴ふもこれは之によるといふ）又茶筅を製し之を鬻く毎年元日空也堂茶苑にて茶を點し

本堂　二重瓦屋なり北面空也上人自作の像を本尊とす脇士は地藏毘沙門なり北壇に阿彌陀（行基の作）を安し傍らに又空也上人の像あり（定盛香爐の灰を以て作る所と云）南壇に優婆塞定盛の像を安せり

頂法寺　六角通烏丸東

世に六角堂と稱す天台宗にしてもと無本寺なりしか今は延曆寺に屬せり寺傳にいふ用明帝二年聖德太子四天王寺を造立せんとし木材を求めて山背國高橋の河東に到り俚謠に感し宣はく明年我か志を助くるものわらむと夫より宇治川を遡り此地に來り池水に浴し年來奉持の本尊を池傍の榊枝に懸け之を納めんとするに重くして取ること能はす因て此所に一堂を創しこれを安置したまふ延曆奠都の時此堂街路に當るを以て少く北に移せりといふ弘仁十三年嵯峨帝の勅願所となり長德二年花山上皇行幸したまふ是れ西國巡禮の權輿なりとそ建仁三年善信房（見眞大師なり）比叡山より當寺に詣し夢中に感する所あり更に一宗を創むといふ

本堂　六稜形にて南面せり中央に如意輪觀音（金銅像一寸八分厨子に納む）左右脇士地藏（立像三尺五六寸）毘沙門（同二尺五六寸共に作者を知らす）を安す本堂は古來屢々回祿し天明大火にも類燒し寛政十年欅材のみを以て再建せしか又元治元年兵燹に罹り今の堂は明治十年の再建にかゝる

太子堂　本堂の東北に在り南向す中央に彌陀佛像（立像一尺二三寸）脇士二天（立像二尺五六寸）を

安せり

池の坊　本堂の後に在り相傳ふ當寺古來佛前に四時の花を供せしか規矩未た定まらす永觀年中專慶（當坊第十二世）幼より立花を好み常に空山幽溪を跋渉し自然の趣きを探究し大に覺る所あり後花を折て瓶に挿み壺に投す其姿勢色影眞に迫るの趣きを得たり其後專順（第廿六世）亦其奥旨を闡發し之を其家に傳へ專鎭（第廿七世）に至り足利義政より花道家元の號を與ふ後水尾帝敕專朝（第卅二世）を宮中に召し花法を問ひ給ひ靈元帝侍臣をして專好（第卅五世）に就て其技を受けしめたまふことあり文化十四年仙洞御所に立花を獻せしをはしめ御即位立后の大禮ある毎に獻花すること例となれり

鐘樓　今は境外六角通の南側に在り慶長十年堀尾田雲守忠氏（吉晴の嫡男）の寄附するところなり

尊攘堂（下京區高倉通錦小路北）

子爵品川彌二郎氏その先師松蔭先生の遺志を受け維新前國事に盡瘁せし人々の忠魂を祭り之を不朽に傳へんとて其肖像、遺墨、遺品等數多く蒐集保存し名けて尊攘堂といふ堂は舊典藥頭三角（みすみ）氏の別墅にして泉石幽雅花竹清楚庭中に古鐵燈籠一基あり銘に壽永の文字あり このあたりは源三位の宅跡ならむとの想像より之を賴政燈籠といひ名高し（以上下京）

3
209

3
209